

学校の背景・教育理念

1. 学校の背景

本校は、愛媛県北東部に位置し、平成 17 年越智郡 11 町村、芸予諸島の南半分の島嶼部と合併し、人口 15 万人規模の愛媛県今治市にある唯一の医師会立看護専門学校である。高等課程准看護科及び専門課程第一看護学科(3 年課程全日制)、専門課程第二看護学科(2 年課程全日制)を併設しており、地域住民の健康を守る看護師等の養成を担っている。

今治市の人口減少化は緩やかに進行し、就労人口の減少に伴い医療・介護の分野等の求人が追いついていない現状である。平成 28 年度より今治市では「～豊かな地域社会を次世代につなげるために～」をスローガンに「健やかに安心して過ごせるまちづくり」の事業展開を行っている。それに伴い、本校もこれから 10 年 20 年先の医療状況・地域特性と課題を踏まえ、社会や地域の要望に応える看護職の育成、そして長期にわたって就労し地域に貢献できる人材育成を目指し設置されている。

この設置主体の意図を生かし、以下の教育理念、目的、目標を設定した。

2. 教育理念

人間は、全人的な存在である。また地域の中では、生活者としての役割を持っている。その役割を果たすことができるよう、胎生期から老年期まで各世代の健康課題に応じた支援が必要である。

看護は、多様化する社会に応じて、顕在的・潜在的な健康課題に対する対象者への基礎的実践能力が求められている。そのため、地域医療に貢献する保健・医療・福祉チームの一員として多職種と連携しながら協働できる能力を養う。

このような地域社会での看護の責任を果たすため、看護専門職業人として、想像力・探求心をもった看護実践者を育成する。

3. 教育目的

専門的知識・技術を教授するとともに、健全で、多様な価値観を有する人間の理解を深め教育を行い、知識と実践を結びつけ、地域社会に貢献できる人材を育成できる。

4. 教育目標

- 1) 人がもつ多様な価値観・自己について理解し、人間関係の形成ができる。
- 2) 看護師としての責任を自覚し倫理観・看護観を持ち、自ら行動することができる。
- 3) 対象者を生活全体でとらえ地域で暮らす生活者として支援することができる。
- 4) 看護の役割を理解し、多職種と連携・協働する基礎的能力を養うことができる。
- 5) 社会の変化をとらえ、学び続ける意欲を身につけることができる。

5. 専門課程第一看護学科 教育目標

- 1) 人がもつ多様な価値観・自己について理解し、行動できる。
- 2) 看護師としての責任を自覚し、倫理観・看護観を持ち、自ら行動することができる。
- 3) 対象者を地域で暮らす生活者としてとらえ、その人らしく生きることができるように支援することができる。
- 4) 看護の役割を理解し、多職種と連携・協働することができる。
- 5) 社会の変化をとらえ、自身が学び続ける意欲を身につけることができる。

6. アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー

▲ アドミッションポリシー(求める学生像)

- 1) 社会的マナー、ルールを守ることができる人。
- 2) 自己の長所・短所を理解し、成長することができる人。
- 3) 相手の立場を考え、思いやりをもって接し、協力をすることができる人。
- 4) 探求心を持ち、自身で考え、自分の言葉で他者に伝え、行動できる人。
- 5) 社会(日本・世界)情勢・保健・医療・福祉に関心がある人。
- 6) 地域愛(今治市/東予地区/愛媛県)があり、貢献したい人。

▲ カリキュラムポリシー

- 1) 1年次では、前期に基礎分野・専門基礎分野の人体の構造と機能・専門分野の看護技術、特に生活援助を中心に展開する。後期では、基礎看護学実習Ⅰを行い、座学での学びと実習の体験を結び付けて生活者を理解するための方法や生活者に合わせた援助の工夫を理解する。そして、「地域を知る学習」「地域を知る実習」を通して、地域の特徴を学び、その地域で暮らしている生活者の理解を深める。
- 2) 2年次では、各領域の健康な対象・健康障害をもつ対象とその家族の看護を学習する。対象に応じた良質な看護ができるためには、アセスメント能力、臨床判断能力が必要である。したがって、看護の思考過程である看護過程を基本構造から学ぶ。そして、各領域の看護の特徴について事例演習を通して理解を深め、思考過程の修得を目指す。また、情報の管理・処理の基本、看護研究の基本的知識を学び、3年次へつなげる。
- 3) 3年次では、各領域の看護学実習で様々な看護実践・生活者との関わりを通して、既習の知識・技術をつなげ統合できるように進めていく。また国際看護や災害看護、統合技術演習を通して、学問を発展できるように設定している。「多職種連携と実際」では多職種と関わり、事例検討を通して必要な看護支援が何であるかを明確にし、臨地実習での学びや看護師の役割について包括的な理解を深めるようにする。

- 4) 情報通信技術 (ICT) を活用するための学習を設定しているが、ICT 環境を整え、情報リテラシーを基盤とした情報処理・管理について様々な分野で導入し、体験を通して理解を深められるようにしている。
- 5) 学修評価については、授業態度、出席状況、筆記試験・レポートによる評価、技術評価を行う。実習については各領域の実習評価表により評価する。また、看護技術の修得については「看護技術経験録」(別紙参照 P187-2 から 4)を基に、学内・各実習終了後・卒業前に自己評価を行う。

▲ ディプロマポリシー (卒業像)

- 1) 看護に必要な基礎的能力・倫理観を身につけ、行動することができる。
- 2) 生活者の状態を理解・判断し、必要な看護を実践できる。
- 3) 自己の看護観を培い、看護に反映・自己研鑽に励むことができる。
- 4) 地域・社会(国内外)の特徴を理解し、必要な看護活動について思考できる。
- 5) 保健・医療・福祉の連携と看護師の役割について理解し、身につけることができる。